

## DRC コンゴ

### 主要データ

国名(英名)	コンゴ民主共和国(Democratic Republic of the Congo)
面積(km <sup>2</sup> )	2,344,858
海岸線延長(km)	37
人口(百万人)	68.7
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	29.3
GDP(百万 US\$)	11,629
一人当り GDP(US\$)	185
一人当り銅使用量(kg/人)	NA
主要鉱産物：鉱石(千 t)	銅:242.4
主要鉱産物：地金(千 t)	銅(SxEw):40.9、コバルト:300(t)
鉱業管轄官庁	鉱山省
鉱業関連政府機関	鉱業登録所(Mining Registry)
鉱業法	鉱業法(Mining Code)
ロイヤルティ	0.5~4%(非鉄金属:2.0%)
外資法	投資法
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	鉱業権申請時の環境影響評価、環境管理計画の実施・策定義務あり。
鉱業公社	Gecamines、Miba、Sakima、Okimo、Sodimico、Kisenge Manganese
鉱業活動中の民間企業	Anvli Mining(豪)、Katanga Mining(英)、First Quantum(加)、Metorex(南ア)
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	外資企業との間で鉱業ライセンスの見直し交渉が継続中。2009年に入り、一部妥結し始めている。
<b>2008年のトピックス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008年後半、東部地域で反政府勢力と政府軍との武力衝突が激化。東部地域の治安は悪化した状態が継続。</li> <li>・2007年より導入されたカタンガ州政府による鉱石の輸出禁止措置は、2009年2月に解除された模様。</li> <li>・Tenke Fungurume 銅・コバルト鉱山が2009年3月、生産開始した。</li> </ul>

### 1. 鉱業一般概況

コンゴ民主共和国(以下「DRC コンゴ」)はアフリカの中でも、銅、コバルト、ダイヤモンドなどに代表される有数の資源国であるが、1997年から2001年間の内戦、政情不安の結果、最貧国の一つとなってしまった。内戦以前、鉱業はGDPの25%を、輸出額の3/4を占めていたが、IMFの報告によれば、2000年における鉱業のGDPシェアは6%にまで落ち込んだとされている。

カビラ大統領の暫定政権下での和平プロセスの進展が見られるにつれ、徐々に情勢は安定化

し、政府は、鉱業を、国内経済を支える柱の一つとして位置付け、ここ数年、欧米企業を中心とし、ダイヤモンド、銅、コバルトを始めとした鉱業投資が再び戻り始めた。また、国内経済も徐々に回復基調にあり、2007年のGDP成長率は6.5%となった。

このような中、独立後初の国民議会選挙が2006年7月に、大統領選挙が10月に実施され、カビラ氏が当選、同年12月に正式に大統領に就任した。この選挙による正式な政府の樹立は、DRC コンゴの政情安定化をもたらし、回復基調

にある国内経済の建て直しをさらに促進するものとして待望されていたものである。特に2007年後半まで、資源価格の高騰も背景に、中国も含む外資による参入により、探鉱開発活動は活発化し、生産も大きく伸びた。

中国に関しては、2007年後半、中国とDRCコンゴの間での60億US\$とも90億US\$とも言われる資金供与が合意された。中国が提供する資金は、鉄道、道路、病院、空港などのインフラ整備とともに鉱山投資にも当てられる。その見返りとして、中国側はカタンガ州の銅鉱床の開発権益を取得した(従来、英Katanga Mining社が、DRC国営企業であるGecaminesとのJVで実施していたカタンガ州Kamotoの2銅プロジェクトをDRCコンゴに売却、その権益を中国側(Sinohydro社とChina Railway Engineering社)とGecaminesとのJV(Sicomines社)に移転)。

一方で、カビラ政権のガバナンスは依然として地方には十分に行き届いていない面もあり、選挙結果に不満を持った対抗勢力等と政府との紛争が一時激化した。2007年12月以降、国連のPKO部隊が入った結果、一時治安は安定しつつあったが、2008年8月以降、東部地域(オリエンタル州、南北キブ州)の武装勢力と政府軍との武力衝突が激化、治安も大幅に悪化した。その後2008年11月にオバサンジョ元ナイジェリア大統領の仲裁の下、国際社会の介入、反政府勢力内の内部抗争等を経て、2009年1月の停戦宣言により、内戦は終結した。しかし、その後もDRCコンゴ領内でのルワンダ軍によるルワンダ反政府武装集団の掃討作戦は継続しており、この地域の治安情勢は以前安定化していない。

こうした治安要因、2007年からはじまった鉱業ライセンスの見直し(詳細後述)等により、外資の投資意欲は減退傾向にある。特に2008年秋以降の金融危機により、CAMEC社(Central African Mining & Exploration Co.)の銅・コバルト・プロジェクトはじめ、いくつかの主要プロジェクトで操業が中断されるにいたっている。この結果、DRC内で2008年末までに約30万人の雇用が失われたとも報じられている。

他方、未開発の銅・コバルト鉱床としては世界でも最大規模かつ高品位の鉱床の一つといわれるTenke Fungurume銅・コバルト・プロジェクト(Freeport-McMoRan Copper Gold 57.75%、

Lunden Mining 24.75%、Gecamines 17.5%)は、2009年3月、カソードの生産を開始した。

## 2. 鉱業政策の主な動き

- ・ 2008年における制度面での変更はない。
- ・ 最近の世界的景気低迷を反映した動きとしては、2008年12月、政府は、鉱業に対する減税措置を検討中である旨表明している。
- ・ 他方、一部では、以下のような制度運用、あるいは中央・地方政府間の行政上の問題が生じている事例があり、企業活動に影響を及ぼしている。

### (1) 鉱業ライセンスの見直し

- ・ 政府は、2007年5月から内戦前後の混乱期に締結されたGecamines等国営企業と外国企業との鉱業協定(契約)について、これらの中には合法的でないもの、あるいは休止状態のものも含まれているとし、協定の無効化も含めた、整理のための見直し作業を行っている。政府の委員会による見直しの結果が2008年3月に公表された。その報告では、61の既存の契約の見直しが行われ、これらすべての契約は何らかの形で修正、再交渉、場合によっては破棄する必要があると結論付けており、また、政府は、今後、国内の鉱業が国益にかなうよう、効率的な運営と適切なコントロールを行っていくとしており、その対象にはDRCコンゴで活動を行っているBHP Billiton社(英・豪)、AngloGold Ashanti社(南ア)、De Beers社、Freeport-McMoRanGold & Copper社(米)など大企業を含んでいる。
- ・ 具体的には、たとえば、Freeport社に関しては、同社は、コンゴ最大の銅産出地域であるカタンガ地域で開発中のTenke Fungurume銅・コバルト鉱山を国営企業Gecamines社とのJVで有しているが、この契約(現在Freeport社が57.75%、Lundin Mining社(加)が24.75%保有)についても見直しの必要性が指摘され、Gecamines社のシェアを現行の17.5%から45%まで引き上げるべきとしている。
- ・ これらの報告は、各企業との交渉を経て取りまとめ・公表されたものであるが、3月の公

表後、各企業との再交渉が継続した。再交渉は当所の見通しをはるかに超えて遅延していたが、2009年に入り、Anvil Mining、Lundin Mining、Metorex を含むいくつかの企業との交渉が妥結し始めている。しかしながら、最大手の6社(Anglo Gold Ashanti、Bonaro Corp、First Quantum、Gold Fields、Freeport McMoRan、Mwana Africa)との交渉は、2008年4月現在、妥結しておらず、DRC コンゴ鉱山省によれば、妥結までにはさらに半年を要するとされている。

**(2) カタンガ州による鉱石の輸出禁止措置**

- 2007年3月、銅、コバルト鉱山地帯であるKatanga州の州政府は、銅、コバルト鉱石の輸出禁止措置を導入した。この措置は、中央政府への事前の予告無しに、Katanga州知事により執られたもので、国内(州内)での付加価値を高めることを目的とし、国内で処理不

可能なもののみを輸出可とした。

- その後、主な輸出先であるザンビア政府が事態を重く見て、コンゴ中央政府との外交ルートを通じた協議も行われ、2~3週間の後、解除されたものの、この解除は半年間の暫定措置とされ、2007年後半には再び輸出禁止となっている。
- この輸出禁止措置は、DRC コンゴからの鉱石をザンビアで鉱石処理している、南アMetorex社、カナダFirst Quantum Minerals社などの鉱山の生産に少なからず影響を及ぼし、加えて、関係企業は、現在のザンビアでの鉱石処理をDRC コンゴ国内にシフトする方策も検討し始めている。
- なお、報道によれば、この規制は、2009年2月に再び解除された模様である。

**3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向**

**(1) 主要非鉄金属鉱石生産量**

表 1. DRC コンゴの金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅	131.4	144.6	242.4	67.6
亜鉛	12.6	13.8	24.0	73.9
銀(t)	67.6	76.2	34.1	-55.2
錫	7.2	12.0	9.0	-25.0

(出典：World Metal Statistics 2009)

**(2) 主要非鉄金属地金生産量**

表 2. DRC コンゴの金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008年増減比(%)
銅(SxEw)	51.1	25.4	40.9	61.0
コバルト(t)	550	606	300	-50.5

(出典：World Metal Statistics 2009)

**(3) 主要非鉄金属消費量**

データなし。

**(4) 主要非鉄金属輸出货量**

データなし。

国内に、金属を消費する産業が存在しないため、鉱産物(銅については、国内で精錬される量除き)、地金はすべて輸出されているものと思われる。

(5) 主要非鉄金属輸入量

データなし。

4. 鉱山・製錬所状況

表 3. 鉱山一覧

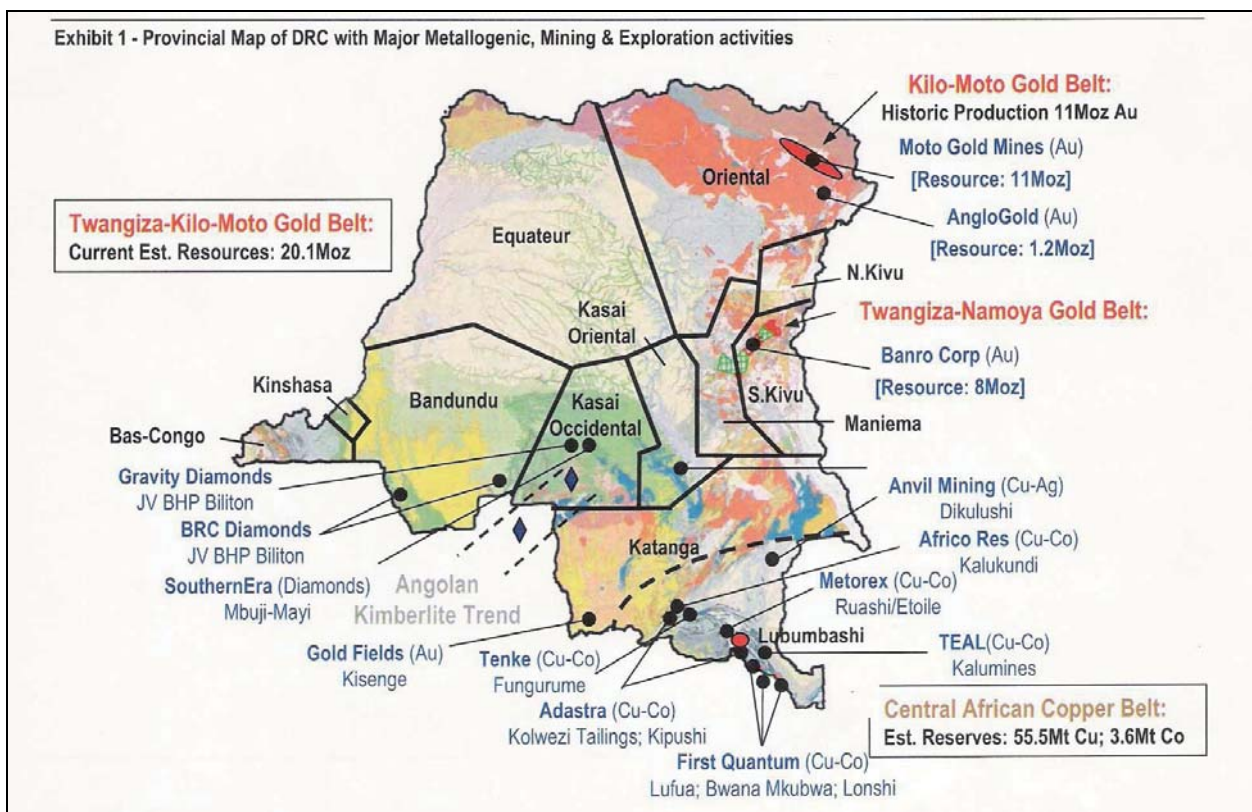
鉱山名	権益所有企業(権益：%)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Dikulushi	Anvil Mining(豪)(90%) DRC 政府(10%)	銅	11.0	・2009年1月、政府とのライセンス交渉妥結。 ・生産量：2008年
		銀	1,096 千 oz (31.1t)	
Frontier	First Quantum Minerals (加)(95%) DRC 政府(5%)	銅	80.2	・2008年央、本格生産開始。 ・生産量：2008年
		コバルト	-	
Kamoto	Katanga Mining(英)(75%) Gecamines(25%)	銅	27.5	・生産量：2008年
		コバルト	2.7	
Kinsevere	Anvil Mining(豪)(95%) Mining Company of Katanga(5%)	銅 (一部 SxEw)	22.9	・2009年1月、政府とのライセンス交渉妥結。 ・2008年12月～2009年3月、選鉱プラントを一時停止。 ・生産量：2008年
Lonshi	First Quantum Minerals(加) (100%)	銅	25.4	・2008年に枯渇。鉱石の在庫は残存。鉱石は従来ザンビアの SxEw プラントで処理されていたが、移送できない状況が継続。 ・生産量：2007年
Luiswishi	George Forrest International (ベルギー)(60%) Gecamines(40%)	銅	-	・価格低迷のため2008年12月から操業中止中。
		コバルト	-	
Luita	CAMEC(英)(70%) Gecamines(30%)	銅(SxEw)	8.0	・2008年11月、操業を一時停止。2009年4月、再開。 ・生産量：2008年
		コバルト	4.0	
Ruashi/Etoile	Metorex(南ア)(75%) Gecamines(25%)	銅(SxEw)	10.7	・2009年2月、政府とのライセンス交渉妥結。 ・生産量：2008年
		コバルト	0.6	
Tenke Fungurume	Freeport-McMoRan(米)(57.75%) Lundin Mining(加)24.75%) Gecamines(17.5%)	銅(SxEw)	-	
		コバルト	-	

(注) DRC コンゴには、現在以下の6社が存在する。Miba社は80%政府・20%民間所有(ベルギー資本)の会社であるが、他は100%政府所有であり、会社ごとに鉱種、活動地域の棲み分けがなされている。それぞれの会社は、参加に個別の鉱山企業・プロジェクトを抱えるホールディングカンパニーであり、傘下の鉱山、プロジェクトは、外国企業とのJVの形式をとっているものも多い。最大のものは、国内最大の産銅・コバルト地域であるカタンガ州を本拠地とするGecamines社である。

- ①Gecamines：カタンガ州中心。銅・コバルト、亜鉛、錫、ウラン
- ②Miba：東西カサイ州中心。ダイヤモンド、クロム、ニッケル
- ③Sakima：南北キブ州中心。錫、タンタル、タングステン、金
- ④Okimo：北東部オリエンタル州中心。金、銀
- ⑤Sodimico：カタンガ州中心。銅・コバルト
- ⑥Kisenge Manganese：カタンガ州西部中心。マンガン

表 4. 製錬・精製所生産状況

	権益所有企業(権益：%)	鉱種・形態	生産量(千 t)	備考
<製錬所>				
Luilu(製錬所)	Gecamines(100%)	銅	30.0(能力)	
Shituru Electrolysis Plant(製錬所)	Gecamines(100%)	銅	30.0(能力)	
Lubumbashi Slag Treatment(製錬所)	OM Group(米) (55%) George Forrest International (ベルギー) (25%) Gecamines(20%)	コバルト	4.5	生産量：2008年
		銅	3.0(能力)	
Shituru Refinery(精錬所)	Gecamines(100%)	銅	100.0(能力)	
		コバルト	-	
Luilu(Leach Plant)	Katanga Mining	銅	50.0(能力)	
		コバルト	-	
Luita(精錬所)	CAMEC(100%)	銅	40.0(能力)	
		コバルト	-	
Ruashi II(精錬所)	Metorex(南ア) (75%) Gecamines(25%)	銅	15.0(能力)	
		コバルト	-	



(出典：Mining Registry)

図 1. DRC コンゴにおける鉱山・探鉱活動

## 5. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

表 5. DRC コンゴの日本への精鉱 / 地金輸出量

鉱種	2006年	2007年	2008年	2008/2007(%)
銅地金(千t)	-	139	-	-
コバルト地金(t)	7	-	-	-

(出典：財務省貿易統計)

### (2) 日本企業による投資状況等

特になし。

## 6. その他トピックス

特になし。

(2009.5/ロンドン事務所 及川 洋)